

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773800034		
法人名	社会福祉法人久仙会		
事業所名	まがい友遊苑		
所在地	沖縄県島尻郡久米島町字真我里366番地		
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 18 日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4773800034-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 居室ごとに壁紙とカーテンの模様や色を変え入居者の方が区別しやすいようにしています。 入居者用トイレ3カ所共に車椅子使用者が利用可能でまた、排泄の失敗があった時すぐ対応ができるようシャワーを設置しています。 余暇活動ではゲーム、カラオケ、体操などを実施し、入居者の方が充実できるよう工夫しています。 地域への行事へ参加、ドライブ等で外出の支援を行っています。 他の事業所との交流を目的とした合同スポーツレク大会を今年度から2か月に1回増加しました。 カラオケでは沖縄の民謡を多く取り入れた機器を整備しました。 楽しく身体を動かせる体操(たいやきくん体操)等で工夫しています。 算数ドリルやその他のツールを使って頭を使うこと、手を使うゲームを通して機能維持を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人主催で毎月研修会や事業所内の勉強会が計画され職員は参加している。研修担当は各事業所持ち回で、今回「認知症ケアについて」担当し、いろいろな気付きを学ぶ機会とした。また、職員のスキルアップを目指し、資格修得のための経済的支援も行っている。職員が少ない時期に一時的に昼食の配食サービスを利用したり、業務内容を見直したりと入居者の安全にも配慮しながら取り組んでいる。半年ごとのアセスメントや、全職員がモニタリングに関わり、例えば、入浴等の支援方法も介護計画に反映し本人本位の支援をしている。地域医療に取り組む協力病院の訪問診療も行われ、入居者は身体的、精神的負担が緩和されている。また、重度化や終末期に向けた方針も明文化され、ご家族の安心につながっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 26年 10月 8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を作り、入居者・家族・訪問者・職員がみえやすいように玄関に掲げたり、毎月発行のまがい通信やパンフレットにも記載しています。	理念について管理者、職員間で話し合い共有している。入居者が笑顔で暮らせるようふれあいを大切に、方言を教えてもらったり、相談に乗るなどコミュニケーションをとっている。今年度は「余暇活動の充実・地域に出かけていく」等の取り組みについて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加し、入居者と地域のつながりを大切にしている。	事業所は自治会への加入はしていないがハーリーや町主催の敬老会への案内等があり、利用者全員で参加している。また、手話サークル、なんくる三味線、有償の散髪ボランティアの訪問はあるが、地域の方が遊びに来たり、立ち寄り等々の日常的な交流が少ない。	今年度「地域へ出かけていく」を目標にとりくんでいくことも話し合われており、日常的な交流を広げるために事業所が積極的に取り組むことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	久米島町介護サービス事業者連絡会などに参加し、高齢者及び障害者の支援向上に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の実績報告や取り組みなどについて報告し、それらに対する意見なども聞いている。参加メンバーについても近隣の区長や各居宅支援事業所にも声かけし、参加の依頼を行っている。	会議は2カ月に1回定期的に行われ、事業所の活動報告や事故報告等はされている。町担当者、民生委員、家族の参加はあるが入居者や構成委員である地域の区長の参加は確認できない。運営推進会議の要項は作成され、会議への参加依頼も管理者が文書の手渡しで行っているが、参加がない。	利用者の参加と運営推進会議の要項を活かし、委員へ構成メンバーであることを周知するなどして会議への参加を積極的に働きかけることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課、地域包括センター、町社協等とも連絡を取り合いサービスの向上に努めている。	町福祉課、地域包括センターとは日ごろから連携をとり生活保護者の相談、身元引き受け人の相談、事業所の利用状況(空室)、利用案内等相談している。その他、行政主催の「介護サービス事業者連絡協議会」への案内等があり参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い職員に認識してもらい日中は施設内での施錠は行っていません。	「身体拘束をしない」事業所の方針を明文化し、身体拘束委員会を設置している。職員は法人主催の「身体拘束について」の研修会や「認知症ケア」の勉強会等を通し身体拘束について理解を深めている。介護支援では言葉に留意し、不適切な行為を確認した時は管理者はその都度注意し、職員間でもお互いに注意したり、考察している。	

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止及び関連法案について勉強会を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人施設長は、成年後見人を担当しており職員へ権利擁護に関する研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者との契約においては管理者が契約書及び重要事項説明書の内容について説明を行い説明後に、疑問点等が無い確認を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、ご家族や面会人の意見が取り入れるにしています。入居者から要望がある時はその都度職員間で話し合ったりしています。施設にも苦情相談を設置したり苦情相談機関名と電話番号を玄関に掲示しています。家族説明会のさい意見や要望がある時は遠慮なく申し出るよう声掛けを行っています。	家族は意見箱はほとんど活用せず、事業所を訪れた際に送迎に関することや、リハビリを増やして欲しい等の要望や意見がある。また、意見を聴く機会として家族参加のスポーツレク大会やクリスマス会等に声をかけて行っている。利用者は夕食後のゆったりした時間にテレビを見ながら職員に話すことが多く職員間で共有し話し合う。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見がある時はその都度、聞き職員会議等で話し合いが必要な時はその都度を行っている。	月1回の定例会議があり、管理者は職員の意見や要望を聞き、例えば、昼食の配食サービスから事業所で調理する為に、広間の清掃時間を調整するなど反映させている。職員のスキルアップを目指し、資格修得やその他の面でも貸付支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給と年2回の賞与を支給しています。職員の資格に応じて資格手当を支給しています。職員が資格を持つことにより向上心が持てるよう資格取得助成金制度も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に合わせ、内外の研修に参加させています。また、資格取得へ向けた支援を激励しています。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久米島町介護サービス事業者連絡会などに参加し、意見交換や交流を行っています。町主催の勉強会にも職員は参加しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は入居してきた利用者のニーズが把握するため積極的に話しかけコミュニケーションを築きながら自分の意見が話しやすい環境作りに心がけてます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は家族からの意見や要望が無いか声掛けを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族から要望を伺ったり生活環境を踏まえたうえで対応を行っています。定期受診の負担軽減のため訪問診療を利用しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々に軽作業などを通し役割を持って頂き職員と家庭的雰囲気の中で過ごせる環境作りを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、月1回まがい通信を送付したり、面会、施設行事に来られたさいに入居者の状況を報告したりまた、ご家族からの要望などを伺ったりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで、自宅周囲を回ったり、知り合いの方と出合った時はゆっくり話せるようにしている。	利用者の職歴や趣味、これまでの活動等を把握して支援に努めている。友人や知人との電話交流されている方へは電話番号のリストを準備し、信仰をもっている方の居室環境の工夫や、ドライブでは馴染みの場所へ行ったり、情報を収集して関係継続できるよう支援している。	

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係をみながらテーブルの座席配置を調整し、また職員が中に入りながらコミュニケーションが図れるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	顔を合わせた時はお互いに声掛けをしたり、行事などの案内したりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望を訪ねたり、日頃の日常会話の中からニーズの把握に努めています。	日々の生活の中で声掛けして聞いたり、入居者の状況を確認しながら把握に努めている。「仕事がしたい」希望者には食器洗い、洗濯物たたみ等お願いするなど、また、退院後刻み食の方が「普通食を食べたい」との要望に、嚥下状態を確認しながら常食に変更している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から伺ったり、ご本人から伺ったりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状況をみながら余暇活動、軽作業への参加して頂いたり、離床時間を調整等を調整したりしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人及びご家族と話し合いながら計画を作成しています。	アセスメントは半年毎に、モニタリングは3か月毎に実施し、全職員が関わっている。入居者、家族の思いや希望は日頃のケアの中で把握し介護計画に反映されている。職員は介護計画を共有して、其々の介護記録に日々の介護目標を記載して、サービスの実施状況を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の生活状況を個別記録に記入し、変化がある時は職員間で情報を共有しながら介護計画作成に取り入れている。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応が可能なニーズに対しては柔軟に対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張理容サービスや訪問診療サービスを活用し、入居者の負担を軽減したり、楽しく生活が送れるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診の支援を行っています。	協力医が馴染みのかかりつけ医で、全員が協力医療機関の訪問診療となっている。家族支援の負担軽減も考慮して訪問診療、他科受診もほとんど管理者、職員が対応し結果等は家族に電話で報告している。看護師が週1回入居者の健康管理等を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の嘱託の看護師の訪問日には入居者の体調変化がある時は、報告を行い受診が必要と思われるものについては受診を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院された際は、施設での情報を提供したり、経過状況を確認したりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期において施設で対応が可能なことを説明しています。	「重度化した場合における対応に関する指針」も明文化し、家族には契約時に説明している。繰り返しの指針説明、確認には至っていない。家族の希望があれば、法人の特養施設で対応可能であることも説明している。現在希望している家族はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの勉強会を開催時に行っています。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防と協力し、年2回の避難訓練を実施しています。	昼夜想定避難訓練は年2回、自主訓練と消防署協力で実施されている。町の災害マップ、あらゆる災害マニュアルも整備している。地域の協力体制は地域に参加協力も呼びかけていない等、また、災害に備えた備品、備蓄等が課題となっている。	避難訓練に地域の協力参加と災害に備えた備品等の準備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重しながら声掛けを行いリビングから居室の中が見渡せるところは居室入口に暖簾をかけたりにしています。	入居者の状況を判断し、自己決定しやすい声掛けに努めている。入浴の同性介助希望の支援やトイレの出入口も二重にしてプライバシーに配慮されている。倫理や守秘義務の研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に入居者の要望を訪ねながら対応を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々に余暇活動は何をしたいか伺ったり、食事で食べたいメニューを伺ったりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えのさいは本人の意向を伺いながら対応し、整容サービスも定期的に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る時、入居者の方にも伺いながら作成したり、野菜をつくらせてもらったり、食器拭きなど手伝って頂いています。	昨年度は一時的に昼食は配食を利用していたが、職員と話し合い3月より復活し3食事業所で作っている。介護計画に沿って下ごしらえ、食器拭き、野菜繕いと支援している。献立は入居者の希望も取り入れる等、食事形態も刻み、とろみ、常食で見守り対応し職員も一緒に同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量をチェックし食事摂取量の少ない方は主治医に相談し、高カロリー補助食品を処方したりしています。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しを行い介助の必要な方については職員が介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ日中は快適に過ごせるよう布パンツに尿取パットを併用しながらトイレでの排泄支援を行っています。	排泄チェック表を活用して昼間はトイレで排泄できるよう支援している。起床時の陰洗を計画に反映して取り組み、下剤依存の方の対応を医師と相談して調整している。夜間はトイレ誘導やポータブル、オムツを使用して入居者に合わせて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操への参加促しや水分補給、野菜の摂取への声掛け等を行っています。 腹圧の弱い方は職員は援助を行ったりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入チェック表を確認したりまたご本人からの要望及び必要に応じて対応を行っています。	入浴日を固定せず週2～3回で希望を聞いて支援し、毎日でも可能で同性介助希望には対応している。介護計画に支援方法を反映して行っている。個々の入浴用具を持参し、前日に着替えの準備をする方や職員と一緒に準備している。嫌がる時は無理強いせず変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態をみながら疲れていると思われる時は休息を促したり、夜眠れない時は、話し相手をし落ち着ける環境をつくりを支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬の処方箋を綴り職員が確認しやすいようにしています。 薬の変更がある時は申し送りノートにその都度記載しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業等ので入居所の方に合わせ役割を持っていたり、余暇活動も入居者の得手不得手のバランスをみながら調整を行っています。		

沖縄県(まがい友遊苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ディサービスの送迎を利用しながら外出の支援しています。	地域の漁港でのハーリー大会の応援や見学、公園にお花見に出かけている。ディサービスの送迎を利用したのドライブや地域のマラソン大会の応援で戸外に出ることはあるが、日常的な外出には至っていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方のお金の所持についてはご本人で管理できる方は所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方についてはその都度、対応を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で入居者の方々が心地よく過ごせるよう照明器具の光量の調整やテレビなどの音量はその都度、職員が調整を行っています。	広間の天井は高く、広間を囲むように各居室、畳間の配置で、空気清浄機の活用や毎朝窓を開け空気の入れ替えをしている。台所と入居者が集うテーブルは近く、調理の音やにおいが五感刺激になっている。作品等も飾り居心地良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仕切りなどで工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や希望者にはテレビ等も置き家庭的環境で心地よく過ごせるよう工夫しています。	居室入口には写真等で明示し、整理タンス、衣装ケース、テレビ等が持ち込まれ、家族写真、作品等で其々が居心地よく過ごせる工夫をしている。絵を描くことが好きな入居者は、色鉛筆と画用紙を調べて、いつでも絵が描けるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口には写真とネームプレートを掲示しご本人が分かりやすいよう配慮しています。トイレ3カ所ともに車椅子の方が利用できるよう工夫しています。		